

INTERVIEW

育休3年に反対。働きたい女性にハンデだ

アベノミクスで女性の働きやすさに向け対策を打ち出したのはよかった。ただ「育休3年」は引っかかる。安倍さん、ついに本音が出たわね、という感じ。3年も仕事を離れたら、現実的にも使い物にはならない。企業も慈善事業でないかぎり無理だ。“3年抱っこし放題”という価値観ができると、職場に早く復帰して働きたい女性にも、精神的

撮影：梅谷秀司



うちなが・ゆかこ ● 1946年生まれ。東京大学理学部卒。日本IBM専務執行役員などを経て、2007年NPO法人「J-Win」理事長。

NPO法人 J-Win 理事長
内永ゆか子

ハンデを与えることになる。

昔のように専業主婦を目指す人もいるが、今は掃除機や洗濯機があるうえ、育児サービスなど社会インフラも整っており、家事に割く時間は減っている。その空いた時間に仕事で社会貢献するのは自然な姿だろう。統計データはないが、母親が子どもと四六時中一緒にいる必要があるのか。抱っこするのが母親でないとダメなのか、という疑問はある。

最近、「ワーク・ライフ・バランス」といわれるが、私は持論として、バランスではなく、「ワーク・ライフ・マネジメント」だと思っている。働く時間や場所を固定化するのではなく、働き方を自分でマネージし、会社が割り当てた仕事への貢献や結果に対して、評価する制度に変えるべきだ。仕事を長時間すればいいわけではない。これまであった、日本企業のホワイトカラーの低い生産性とい

う問題を解決しなければ、いつまでも女性が安心して働けない。

ただ、企業に女性役員登用を義務づける、「クオータ制」はやりすぎ。ダイバーシティ（多様性）は女性のためだけでなく、企業が強くなるために必要である。日本はモノカルチャー（単一文化）でやってきたが、今後成長するためには、全然違う発想の人が組織に入ることが有効になる。これは企業が株主に対してコミットすべきものであり、国からの強制でやるようなものではない。そんなこともわからない経営者は不要だ。

女性は仕事も育児も人生のフルコースを楽しめる。私には子どもがいないが、女性幹部候補生を育成する「J-Win」のメンバーに聞くと、みんな「子どもを産んで人生が100倍楽しくなった」と言っている。女性たちも自分の人生を前向きに進んでほしい。



「東洋経済」
2013年8月31日号
(2013年8月26日発売)